

教 職 教 養
令和 2 年 7 月
60 分

## 教 職 教 養 問 題

### 注 意

- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 他の受験者の迷惑になるような行為、スマートフォン等の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、26ページです。はじめにページ数を確かめてください。
- 7 解答用紙に、**必要事項の記入やマークがない場合や誤っている場合には、解答は全て無効**となります。
- 8 解答用紙の【1】の欄には、**受験番号を記入し、受験番号に対応する数字をマーク**してください。【2】の欄には、**氏名を記入**してください。
- 9 解答は、解答用紙の注意事項に従って、**問題で指示された解答番号の解答欄にマーク**してください。例えば、「解答番号は  。」と表示のある問に対して、**3**と解答する場合には、右の(例)のように解答番号**1**の解答欄の③にマークしてください。
- 10 各問題とも正答は一つだけです。**二つ以上マークした場合は誤り**とします。
- 11  ~  は**共通問題**です。 ~  は**選択問題**です。 (解答番号  ・  )は**小学校に関する問題**、 (解答番号  ・  )は**中学校に関する問題**、 (解答番号  ・  )は**高等学校に関する問題**です。**次の表に従って、解答**してください。

(例)

解答番号	解答欄
1	① ② ● ④ ⑤

校 種 等	教 科 (科 目 等)	解答する問題の記号	
小 学 校	小学校全科、小学校全科(理科コース)、小学校全科(英語コース)	<input type="text" value="A"/>	
中・高等学校共通	国語、社会(地理歴史)、社会(公民)、数学、理科(物理、化学、生物)、英語、音楽、美術、保健体育	<input type="text" value="B"/> 又は <input type="text" value="C"/>	
小・中学校共通	音楽、美術(図画工作)	<input type="text" value="A"/> 又は <input type="text" value="B"/>	
小・中・高等学校共通	家庭	<input type="text" value="A"/> 又は <input type="text" value="B"/> 又は <input type="text" value="C"/>	
中 学 校	技術	<input type="text" value="B"/>	
高 等 学 校	情報、商業、工業(機械系、電気系、化学系、建築系、工芸系)、農業(園芸系、食品系、造園系)、水産、福祉	<input type="text" value="C"/>	
特 別 支 援 学 校	小学部	<input type="text" value="A"/>	
	中学部	技術	<input type="text" value="B"/>
	中学部、高等部	国語、社会、数学、理科、英語、保健体育	<input type="text" value="B"/> 又は <input type="text" value="C"/>
	小学部、中学部、高等部	音楽、美術、家庭	<input type="text" value="A"/> 又は <input type="text" value="B"/> 又は <input type="text" value="C"/>
	理療		<input type="text" value="C"/>
	自立活動(聴覚障害、言語障害、肢体不自由)	<input type="text" value="A"/> 又は <input type="text" value="B"/> 又は <input type="text" value="C"/>	
養 護 教 諭		<input type="text" value="A"/> 又は <input type="text" value="B"/> 又は <input type="text" value="C"/>	

- 12 解答用紙の【3】の欄の**選択問題の校種を表す記号(A、B又はC)**を必ずマークしてください。**マークがなかったり、マークした校種以外の問題や「11」で指定した以外の問題を解答した場合、解答は全て無効**となります。
- 13 問題冊子の余白等は、適宜使用して構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 14 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年、平成30年又は平成31年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 15 問題の内容についての質問には一切応じません。



## 共通問題

1 教育基本法に関する記述として適切なものは、次の1～5のうちのどれか。解答番号は

1。

- 1 義務教育として行われる普通教育は、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造することを目的として行われるものとするされている。
- 2 国及び地方公共団体は、障害のある者が、その障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるよう、教育上必要な支援に努めなければならないとされている。
- 3 法律に定める学校は、児童・生徒の教育について第一義的責任を有するものであって、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとするされている。
- 4 法律に定める学校は、特定の宗教のための宗教教育その他宗教的活動をしてはならないとされている。
- 5 法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならないとされている。

2 学校教育法に関する記述として適切なものは、次の1～5のうちのどれか。解答番号は

2。

- 1 この法律で、学校とは、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び専修学校のことである。
- 2 校長は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより、児童・生徒に懲戒を加えることができるが、教員は懲戒を加えることができない。
- 3 経済的理由によって、就学困難と認められる学齢児童又は学齢生徒の保護者に対しては、区市町村は、必要な援助を与えなければならない。
- 4 校長は、性行不良であって他の児童・生徒の教育に妨げがあると認める児童・生徒があるときは、その生徒の保護者に対して、出席停止を命ずることができるが、児童の保護者に対して出席停止を命ずることはできない。
- 5 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校には、校長、副校長、主幹教諭、主任教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭及び事務職員を置かななければならない。

**3** 学校において備えなければならない表簿に関する記述として、法令に照らして適切なものは、次の1～5のうちのどれか。解答番号は **3** 。

- 1 校長は、児童等の出席の状況を記録した出席簿を作成しなければならないが、保存する義務はない。
- 2 校長は、児童等が転学した場合においては、当該児童等の指導要録の写しを保存し、原本を転学先の校長に送付しなければならない。
- 3 校長は、児童等の指導要録を作成し、指導に関する記録については5年間、入学、卒業等の学籍に関する記録については20年間保存しなければならない。
- 4 校長は、児童等の学習状況について保護者に対して伝えるために、通知表を作成するとともに、当該通知表の写しを作成し、5年間保存しなければならない。
- 5 高等学校及び中等教育学校の校長は、入学者の選抜及び成績考査に関する表簿を作成し、1年間保存しなければならない。

**4** 教科用図書に関する記述として、法令に照らして適切なものは、次の1～5のうちのどれか。解答番号は **4** 。

- 1 地方公共団体は、毎年度、義務教育諸学校の児童・生徒が各学年の課程において使用する教科用図書を購入し、当該学校の校長を通じて児童又は生徒に給与する。
- 2 小学校に10月に転学した児童には、転学前に給与を受けた教科用図書と転学後に使用する教科用図書が同一の場合であっても、再度、当該教科用図書が無償で給与される。
- 3 中学校においては、教科用図書以外の教材は、有益かつ適切なものであれば、教員は当該学校の校長に報告することにより、教科の主たる教材として授業に使用することができる。
- 4 高等学校においては、文部科学大臣の定めるところにより、「文部科学大臣の検定を経た教科用図書」又は「文部科学省が著作の名義を有する教科用図書」以外の教科用図書を使用することができる。
- 5 公立の義務教育諸学校における教科用図書の採択は、教科用図書選定審議会が行う助言により、当該義務教育諸学校の校長が、種目ごとに一種の教科用図書について行う。

5 教育公務員の研修に関する記述として、法令に照らして適切なものは、次の1～5のうちどれか。解答番号は 5 。

- 1 教育公務員には、研修を受ける機会が与えられなければならない、教員は、授業に支障のない夏季、冬季、春季休業日に限り、本属長の承認を受けて、勤務場所を離れて研修を行うことができる。
- 2 公立の小学校等の教諭等の任命権者は、児童等に対する指導が不適切であると認定した教諭等に対して、その能力、適性等に応じて、当該指導の改善を図るために必要な事項に関する研修を実施しなければならない。
- 3 公立の小学校等の教諭等の任命権者は、教諭等に対して、その採用の日から6か月間、教諭等の職務の遂行に必要な事項に関する実践的な研修を実施しなければならない、臨時的に任用された者に対しては、その採用期間に応じて同様の研修を実施しなければならない。
- 4 公立の小学校等の教諭等の任命権者は、初任者研修を受ける者の所属する学校の副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭又は教諭のうちから、指導教員を命じるものとするが、講師に指導教員を命じることはできない。
- 5 県費負担教職員の研修については、区市町村教育委員会が実施しなければならないため、公立の小学校等の教諭等の任命権者である都道府県教育委員会が県費負担教職員の研修を行うことはない。

6 地方教育行政に関する次の記述ア～エのうち、法令に照らして正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の1～5のうちのどれか。解答番号は  。

- ア 地方公共団体の長には、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるとともに、教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止に関する事務を管理し、及び執行する権限が与えられている。
- イ 教育委員会は、その権限に属する事務に関して協議する必要があると思料するときは、地方公共団体の長に対し、協議すべき具体的事項を示して、総合教育会議の招集を求めることができる。
- ウ 地方公共団体の長は、教育委員会の委員の任命に当たっては、委員の年齢、性別、職業等に著しい偏りが生じないように配慮するとともに、公平性の観点から、委員のうちに保護者である者が含まれないようにしなければならない。
- エ 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その所管に属する学校ごとに、当該学校の運営及び当該運営への必要な支援に関して協議する機関として、学校運営協議会を置くように努めなければならない。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 イ・ウ
- 4 イ・エ
- 5 ウ・エ

7 公立学校の教員の採用及び任用等に関する記述として、法令に照らして適切なものは、次の1～5のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 大学附置の学校以外の公立学校の教員の採用は、地方公共団体の職員の採用と同じく競争試験によるものとし、その競争試験は、任命権者である教育委員会の教育長が行う。
- 2 公立の小学校等の教員の給与は、これらの者の職務と責任の特殊性に基づき、条例で定めるものとする。
- 3 教諭の採用は、全て条件付のものとし、当該教諭がその職において6か月間、良好な成績で勤務した場合に正式採用になる。
- 4 公立学校の教員の休職の期間は、結核性疾患のため長期の休養を要する場合の休職においては満2年とするが、任命権者が認めるときは、満5年まで延長することができる。
- 5 公務員は、一般職と特別職とに分けられており、教育公務員のうち常勤の教員は一般職であるが、校長及び教育委員会の専門的教育職員はその職責の重要性から特別職である。

8 公立学校の教員の服務に関する記述として、法令に照らして適切なものは、次の1～5のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 教員は、その職務を遂行するに当たって、上司の職務上の命令に忠実に従わなければならないが、その命令は文書、口頭いずれの方法でも有効である。
- 2 教員は、他の事業若しくは事務に従事することが本務の遂行に支障がない場合、任命権者の許可がなくても、教育に関する事業若しくは事務であれば従事することができる。
- 3 教員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならないが、その職を退いた後であれば、この限りではない。
- 4 教員は、当該教員の属する地方公共団体の区域外であれば、政党その他の政治的団体の構成員となるように、勧誘運動をすることができる。
- 5 教員は、その職の信用を傷付け、又は職員の職全体の不名誉となるような行為をしてはならないが、勤務時間外の行為はこれに該当しない。

9 「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」に関する記述のうち**適切でないもの**は、次の1～5のうちのどれか。解答番号は **9**。

- 1 青少年が安全に安心してインターネットを利用できるようにするための施策は、青少年自らが、主体的に情報通信機器を使い、インターネットにおいて流通する情報を適切に取捨選択して利用するとともに、適切にインターネットによる情報発信を行う能力を習得することを旨として行われなければならない。
- 2 保護者は、インターネットにおいて青少年有害情報が多く流通していることを認識し、自らの教育方針及び青少年の発達段階に応じ、その保護する青少年について、インターネットの利用の状況を適切に把握するとともに、青少年有害情報フィルタリングソフトウェアの利用その他の方法によりインターネットの利用を適切に管理し、及びその青少年のインターネットを適切に活用する能力の習得の促進に努めるものとする。
- 3 国及び地方公共団体は、青少年が安全に安心してインターネットを利用できるようにするための施策を講ずるに当たり、関係機関、青少年のインターネットの利用に関係する事業を行う者及び関係する活動を行う民間団体相互間の連携協力体制の整備に努めるものとする。
- 4 国及び地方公共団体は、青少年がインターネットを適切に活用する能力を習得することができるよう、学校教育におけるインターネットの適切な利用に関する教育の推進に必要な施策を講ずるものとし、社会教育においては民間団体が、家庭教育においては保護者が必要な措置を講ずるものとする。
- 5 国及び地方公共団体は、家庭において青少年によりインターネットが利用される場合における青少年有害情報フィルタリングソフトウェアの利用の普及を図るため、必要な施策を講ずるものとする。



10 我が国の近現代の教育に関する次の記述ア～エを年代の古いものから順に並べたものとして適切なものは、下の1～5のうちのどれか。解答番号は  。

ア エレン・ケイの「児童の世紀」など教育に関する著作が翻訳された。欧米の新しい教育学説や教育思想が紹介されるようになり、児童中心主義の児童観が日本の教育界に影響を与え、児童の自由や自発性、個性などを重視する教育運動が展開された。

イ ハウスクネヒトが来日し、帝国大学に着任した。彼の講義後に広がったヘルバルト派の五段階教授法は、教師の管理のもとで国家によって定められた教育内容を五段階の手続に従って教える方法として受け入れられ、公教育の教授法の定型となっていた。

ウ アメリカのコース・オブ・スタディなどを参考に、経験主義を基調とする学習指導要領が刊行された。子供の興味・関心・生活や地域社会を重視して、活動的・協力的な学習を組織しようとする学力観に基づく教育が開始された。

エ 系統主義、最新の科学的成果の反映、内容の構造化・高度化を重視する学習指導要領が告示された。この学習指導要領は、どのような教育内容でも、工夫することによってどの発達段階の子供にも教えることができるとするブルナーの理論を基盤とした「教育内容の現代化」が重視された。

1 ア → イ → ウ → エ

2 ア → ウ → エ → イ

3 イ → ア → ウ → エ

4 イ → ウ → エ → ア

5 ウ → エ → イ → ア

- 11 次の記述は、ある学習指導の方法に関するものである。この学習指導の方法の名称として適切なものは、下の1～5のうちのどれか。解答番号は  。

この学習指導法の中心は、①個別的な進度、②個別化教授と学習、③社会的自己実現の諸活動である。カリキュラムは、「共通な必修教科」と「集団的・創造的活動」とから成り、英語、数学、社会などの教科では、共通に必要なとされる知識及び技能のある単位を完全に習得して次の単位に進むという、学習者の業績を基礎とする自己の進度に即した完全習熟学習法をとっている。

社会的自己実現の諸活動では、集団的な創作活動が重視され、討論、自治会、集会、演劇、図工、美術、音楽、体育、雑誌・新聞の発行等の諸活動が奨励される。大正末期に我が国にも紹介された。

- 1 イエナ・プラン
- 2 ウィネットカ・プラン
- 3 ドルトン・プラン
- 4 プロジェクト・メソッド
- 5 モリソン・プラン

12 「体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底について（通知）」（文部科学省 平成25年3月）に関する記述として適切なものは、次の1～5のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 教育委員会は、校長に対し、体罰を把握した場合には教育委員会に直ちに報告するよう求めるとともに、体罰を行ったと判断された教員等については、学校保健安全法の規定に違反するものであることから厳正な対応を行うことが必要である。
- 2 学校は、指導が困難な児童・生徒の対応について、当該児童・生徒の状況を把握している学級担任等、一部の教員に情報が集まるようにし、学級担任を中心に、指導体制を常に見直すことが必要である。
- 3 校長は、教員に対し、万が一体罰を行った場合や、他の教員の体罰を目撃した場合には、直ちに管理職へ報告するよう求めるなど、校内における体罰の実態把握のために必要な体制を整備することが必要である。
- 4 教員は、機会あるごとに自身の体罰に関する認識を再確認し、自身が児童・生徒への指導で困難を抱えた場合には、安易に他の教員等に相談したり、助けを求めたりするのではなく、まずは自身の児童・生徒への指導の在り方を見直すことが必要である。
- 5 教員等が児童・生徒に対して行った懲戒行為が体罰に当たるかどうかは、当該児童・生徒の年齢、健康、心身の発達状況、当該行為が行われた場所的及び時間的環境、懲戒の態様等の諸条件を総合的に考え、個々の事案ごとに判断するのではなく、法に則して一律に判断しなければならない。

**13** 「児童生徒の教育相談の充実について～学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくり～(報告)」(教育相談等に関する調査研究協力者会議 平成29年1月)に関する次の記述**ア～エ**のうち、正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の**1～5**のうちのどれか。解答番号は **13** 。

**ア** スクールカウンセラーには、不登校、いじめ等の未然防止、早期発見及び支援・対応等について、不登校児童・生徒数やいじめの認知件数、暴力行為発生件数、児童虐待などの件数等から自治体の特徴、ニーズを把握し、自治体に対して助言することが求められている。

**イ** 学級担任及びホームルーム担任には、日常的行動観察や児童・生徒の学業成績、言動、態度、表現物等を通して、児童・生徒の課題を少しでも早く発見し、課題が複雑化、深刻化する前に指導・対応できるように、児童・生徒を観察する力が必要である。

**ウ** 養護教諭は、全児童・生徒を対象として、入学時から経年的に児童・生徒の成長・発達に関わっており、また、様々な課題を抱えている児童・生徒と関わる機会が多いため、健康相談等を通じ、課題の早期発見及び対応に努めることが重要である。

**エ** スクールソーシャルワーカーには、不登校、いじめ等を学校として認知した場合やその疑いが生じた場合、また、災害等が発生した際は、強いストレスを受けたときに起きる心や体の変化の受け止め方、ストレスチェックなどのストレス対処法について教員へ助言することが求められている。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 イ・ウ
- 4 イ・エ
- 5 ウ・エ

14 特別支援教育に関する次の記述ア～エを年代の古いものから順に並べたものとして適切なものは、下の1～5のうちのどれか。解答番号は  。

ア 障害のある児童・生徒等の就学先について、特別支援学校への就学を原則とし、例外的に小・中学校への就学を可能としていた従来の規定から、区市町村教育委員会が個々の児童・生徒等の障害の状態等を踏まえた総合的な観点から就学先を決定する仕組みへと改められた。

イ 国連総会において、締約国は、教育についての障害者の権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障害者を包容するあらゆる段階の教育制度及び生涯学習を確保するとした、障害者の権利に関する条約が採択された。

ウ 小学校、中学校、義務教育学校及び中等教育学校の前期課程において実施されている「通級による指導」が、高等学校及び中等教育学校の後期課程においても実施できるよう、学校教育法施行規則が改正された。

エ スペインのサラマンカにおいて、ユネスコとスペイン政府の共催で、「特別なニーズ教育に関する世界会議」が開かれ、特別なニーズ教育という概念とともに、インクルーシブ教育とインクルーシブな学校の推進を打ち出した声明が採択された。

1 イ → ア → ウ → エ

2 イ → ウ → エ → ア

3 ウ → イ → ア → エ

4 エ → イ → ア → ウ

5 エ → ウ → イ → ア

- 15 次の表は、人権に関する宣言及び条約等について年代順にまとめたものである。表中の空欄 **ア** ~ **ウ** と、空欄に当てはまる宣言及び条約等の名称A~Dとの組合せとして適切なものは、下の1~5のうちのどれか。解答番号は **15**。

採択年	宣言及び条約等の名称	内容等の一部及び関連事項
1948年	<b>ア</b>	人権及び自由を尊重し確保するために、すべての人民とすべての国とが達成すべき共通の基準を示した。
1966年	<b>イ</b>	経済的、社会的及び文化的権利の確保と市民的及び政治的権利の保障が必要であるとの観点から作成された草案が採択された。
1989年	<b>ウ</b>	飢え、貧困等に苦しむ世界の多くの児童の状況に鑑み、児童の人権の尊重、保護の促進を目指した。

- A 国際人権規約
- B 児童の権利に関する条約
- C 児童の権利に関する宣言
- D 世界人権宣言

- 1 **ア**-A      **イ**-B      **ウ**-C
- 2 **ア**-A      **イ**-D      **ウ**-C
- 3 **ア**-C      **イ**-D      **ウ**-B
- 4 **ア**-D      **イ**-A      **ウ**-B
- 5 **ア**-D      **イ**-A      **ウ**-C

16 次の記述ア～エのうち、「E S D（持続可能な開発のための教育）推進の手引」（文部科学省国際統括官付日本ユネスコ国内委員会 平成30年5月改訂）に照らして正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の1～5のうちのどれか。解答番号は 16。

ア E S Dとは、「人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動」である。

イ E S Dは、持続可能な社会の担い手づくりを通じて、ミレニアム開発目標の17全ての目標の達成に貢献するものであり、全ての学習者が持続可能な開発を促進するために必要なプログラミング的思考を身に付けることを目指すものである。また、E S Dは今後の教育を方向付ける概念であり、「国連E S Dの10年」を提唱した我が国としても、一層の推進が求められている。

ウ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の前文に、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、各教科等においても、関連する内容が盛り込まれた。

エ 「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画では、学び方・教え方について、指導者は、教育や学習の活動の場で学習者の理解の深化を重視することが大切であり、学習の対象者全てに一斉に同じ方法で教えるよう努めることと示されている。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ

**17** 心理学の研究に携わった人物に関する記述として適切なものは、次の**1**～**5**のうちのどれか。  
解答番号は **17**。

- 1 ハーローは、空腹のネコやイヌを問題箱の中に入れ、箱の外にえさを置いて誘惑しながら、動物が箱を開けて出てくるまでの時間を測定する研究などを行い、学習の試行錯誤説を唱えた。また、学習の原理として、効果の法則、練習の法則、準備の法則を挙げた。
- 2 ウェクスラーは、個人の知能を診断的に捉える、言語性検査と動作性検査とによって構成される知能検査を開発した。この検査は、後に改訂され、児童用の知能検査であるWISCや成人用の知能検査であるWAISなども作成された。
- 3 ソーンダイクは、自分自身を被験者として、記憶の測定に関する研究を行った。無意味綴りを用いた忘却リストの研究において、学習の直後に急激な忘却が起こるが、しばらくして漸近的に減少するという記憶保持の時間的変化を、保持曲線として示した。
- 4 エビングハウスは、自ら装置を考案し、その装置の中でこ押しを学習するネズミの行動の研究を行うなど、環境条件が生物の行動を決定するという考えに基づくオペラント行動の研究を行った。また、この研究から得た原理を、ティーチングマシンによる教育に用いた。
- 5 スキナーは、アカゲザルを人間の愛情形成を考えるための有効な動物モデルと考え研究を行った。子ザルにとって母親はぬくもりを与えてくれる存在であり、そのような母親が愛着の対象であり、安全基地として機能することを、代理母親模型を用いた実験で明らかにした。



18 心理検査に関する記述として適切なものは、次の1～5のうちのどれか。解答番号は 18 。

- 1 P-Fスタディは、被検査者に人物を含んだ多義的な絵を見せてその絵に関する物語を想像させ、その内容を分析して、人格特性や内的状態を診断する検査で、精神医学の診断方法としてだけでなく、犯罪学、産業心理学などの分野にまでも用いられている。
- 2 矢田部・ギルフォード性格検査は、左右対称のインクのしみの図版10枚を1枚ずつ提示し、何に見えるかを問い、その反応を分析して、人格を多面的に診断する検査で、代表的な投影法の心理検査として用いられている。
- 3 ロールシャッハ・テストは、12の下位尺度ごとに10問、合計120問の質問項目から構成され、特性論的な解釈だけでなく、類型論的な評価も可能な検査で、比較的容易に実施でき、信頼性も高く、臨床や教育などの分野で用いられている。
- 4 内田・クレペリン精神検査は、被検査者に一定の時間で隣り合う二つの1桁の数字を連続加算する作業をさせ、その結果から得られる作業曲線を評価し性格の特徴を判定する検査で、人材の採用や適正配置などに用いられている。
- 5 TATは、二人の人物の不完全な対話で構成される欲求不満場面を絵で示し、被検査者に対話を完成させることによって、人格特性を明らかにする検査で、児童用、青年用、成人用のそれぞれに日本版があり、臨床場面で用いられている。

- 19 次の記述ア・イは、集団におけるリーダーシップに関するものである。ア・イと、これらの研究を行った人物A～Cとの組合せとして適切なものは、下の1～5のうちのどれか。解答番号は19。

ア 集団の目標達成ないし課題解決へ志向した機能をP (Performance) 機能、集団の過程維持に志向した機能をM (Maintenance) 機能と命名し、P機能次元、M機能次元それぞれにおける測定値を基に、リーダーシップの基本類型として、PM型、Pm型、pM型、pm型の4類型に分類した。これら4類型の効果性は多くの組織や教育機関等において吟味され、PM型のリーダーのとき、部下集団の生産性や、成員の仕事に対する動機づけが相対的に最も高いことが一貫して見いだされてきた。

イ リーダーの指導スタイルとして「専制的リーダー」「民主的リーダー」「放任的リーダー」の三つを設定して、そのようなリーダーの下での集団の作業の量と質及び集団の雰囲気を観察した。その結果は、民主的なリーダーの下では能率的で集団の雰囲気もよく、専制的なリーダーの下では作業量が多いが意欲に乏しく、放任的なリーダーの下では非能率的で意欲も低いというものだった。

- A 三隅二不二
- B フィードラー
- C レヴィン

- |   |     |     |
|---|-----|-----|
| 1 | ア-A | イ-B |
| 2 | ア-A | イ-C |
| 3 | ア-B | イ-A |
| 4 | ア-B | イ-C |
| 5 | ア-C | イ-A |

20 「平成30年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について(通知)」(文部科学省 令和元年10月)に関する記述として適切なものは、次の1～5のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 小学校、中学校、高等学校における暴力行為の発生件数は、約7万3千件である。小学校においては、在籍児童数の減少に伴い暴力行為の発生件数も減少しているが、暴力行為の発生状況では、児童間の暴力が増加している。暴力行為の対応については、犯罪行為の可能性がある場合には、直ちに警察に通報するなど、毅然とした対応をとることとされている。
- 2 学校におけるいじめの問題に対する日常の取組に関しては、職員会議等を通じた教職員間での共通理解を図った学校が9割以上を占めるが、校内研修の実施は未だ30%程度にとどまっていることから、各学校にはいじめ問題への取組を年間実施計画等に位置付けて積極的に実施することが求められている。
- 3 いじめの認知件数が増加したことに伴い、小学校及び中学校における出席停止の件数は28件と大幅に増加し、この2年間は2桁の数値となっている。いじめを繰り返す児童・生徒に対し、正常な教育環境を回復するため、必要と認められる場合には、出席停止制度の措置を積極的に検討すべきであるとされている。
- 4 小学校及び中学校の在籍児童・生徒数が減少しているにもかかわらず、不登校児童・生徒数は6年連続で増加し、約6割の不登校児童・生徒が90日以上欠席しているなど、憂慮すべき状況にある。学校は、不登校児童・生徒への支援に当たり、魅力あるより良い学校づくりや児童・生徒の学習状況等に応じた指導・配慮を実施することとされている。
- 5 高等学校においては、近年増加傾向にあった中途退学者数が減少している。学校は、「高等学校等、地域若者サポートステーション及びハローワーク等の関係機関間の連携強化による中途退学者等への切れ目ない支援の実施について」、「高等学校等における中途退学への対応の充実に係る協力について」等に基づき、引き続き指導体制を充実することとされている。

**21** 平成13年に出生した子の実態及び経年変化の状況を継続的に観察した「第17回21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）の結果」（文部科学省・厚生労働省 令和元年8月）のうち、第13回調査（中学1年生）から第17回調査（高校2年生等）の意識の変化に関する記述として適切なものは、次の**1～5**のうちのどれか。なお、この調査は同一客体を対象に学校教育から就業に至るまでを毎年調査することにより、出生時からの縦断データを整備することを目的としたものである。解答番号は **21** 。

- 1 学校生活の満足度について、「楽しいと思える授業がたくさんある」に「とてもそう思う」及び「まあそう思う」と回答した割合の合計は毎年増加の傾向にある。
- 2 休日における学校外での勉強時間について、勉強をしない者の割合は減少の傾向にある。
- 3 平日における学校外での勉強時間について、勉強をしない者の割合は減少の傾向にある。
- 4 悩みや不安について、「進路に関すること」の割合は、「友達との関係に関すること」の割合より毎年高い。
- 5 子供自身が考える将来（進路）について、「高校卒業後に働くことを考えている」者の割合は、「大学卒業後に働くことを考えている」者の割合より毎年高い。

**22** 次の記述**ア**～**エ**は、「東京都教員人材育成基本方針【一部改正版】」（東京都教育委員会 平成27年2月）の「東京都の教育に求められる教師像」の各項目である。また、下のA～Dは、それぞれ「東京都の教育に求められる教師像」の各項目に必要とされる資質能力として示された記述の一部である。**ア**～**エ**と、A～Dとの組合せとして適切なものは、下の**1**～**5**のうちのどれか。解答番号は **22**。

- ア** 教育に対する熱意と使命感をもつ教師
- イ** 豊かな人間性と思いやりのある教師
- ウ** 子供の良さや可能性を引き出し伸ばすことができる教師
- エ** 組織人としての責任感、協調性を有し、互いに高め合う教師

- A 一人一人の良さや可能性を見抜く力
- B 幅広いコミュニケーション能力
- C より高い目標にチャレンジする意欲
- D 教育者としての責任感と誇り

- |          |             |             |             |             |
|----------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| <b>1</b> | <b>ア</b> －A | <b>イ</b> －C | <b>ウ</b> －D | <b>エ</b> －B |
| <b>2</b> | <b>ア</b> －B | <b>イ</b> －D | <b>ウ</b> －A | <b>エ</b> －C |
| <b>3</b> | <b>ア</b> －C | <b>イ</b> －A | <b>ウ</b> －B | <b>エ</b> －D |
| <b>4</b> | <b>ア</b> －D | <b>イ</b> －B | <b>ウ</b> －A | <b>エ</b> －C |
| <b>5</b> | <b>ア</b> －D | <b>イ</b> －B | <b>ウ</b> －C | <b>エ</b> －A |

**23** 「東京都教育振興基本計画 東京都教育ビジョン（第4次）」（東京都教育委員会 平成31（2019）年3月）に関する次の記述**ア**～**エ**のうち、正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の**1**～**5**のうちのどれか。解答番号は **23** 。

- ア** 「全ての児童・生徒に確かな学力を育む教育」において、小学校6年生、中学校3年生を対象に実施している「児童・生徒の学力向上を図るための調査」などでの児童・生徒の学力の定着状況を把握・分析した調査結果を基に、小・中学校における授業改善を推進し、児童・生徒一人一人の基礎的・基本的な知識・技能の定着と伸長に取り組んでいる。
- イ** 「オリンピック・パラリンピックの精神を学び、育む教育」において、これまで各学校が取り組んできた社会奉仕の精神を養う取組を充実させた「東京ユースボランティア」事業を推進するために「TOKYO GLOBAL GATEWAY」の活用の促進を図っている。
- ウ** 「豊かな心を育て、生命や人権を尊重する態度を育む教育」において、児童・生徒にとって相談しやすい環境を整備するため、各学校において、学級担任等による面接やアンケートを定期的実施するとともに、スクールカウンセラーを有効に活用するなどして教育相談機能の強化を図っている。
- エ** 「教員の負担を軽減し、教育の質を向上させる「働き方改革」」において、学校をきめ細かくサポートする全国初の多角的支援組織として、新たに財団法人を設立し、多様な人材を確保する機能や教員をサポートする機能、学校事務を効率化し、事務職員による教員の支援などを推進する機能の三つの機能を柱として展開する。

- 1 ア・イ  
2 ア・ウ  
3 イ・ウ  
4 イ・エ  
5 ウ・エ

## 選 択 問 題

21ページから26ページまでの選択問題 **A** 小学校に関する問題（解答番号  ・  ）、  
**B** 中学校に関する問題（解答番号  ・  ）、**C** 高等学校に関する問題（解答番号  
 ・  ）のうちから、表紙の指示に従って、一つを選択し解答せよ。

### **A** 小学校に関する問題

**24** 小学校学習指導要領外国語活動の「各言語の目標及び内容等」の「英語」の「目標」に関する記述として適切なものは、次の1～5のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 「聞くこと」では、「ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。」を目標の一つとしている。
- 2 「読むこと」では、「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。」を目標の一つとしている。
- 3 「話すこと [やり取り]」では、「サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。」を目標の一つとしている。
- 4 「話すこと [発表]」では、「身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。」を目標の一つとしている。
- 5 「書くこと」では、「大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。」を目標の一つとしている。

**25** 次の記述**ア**～**エ**は、それぞれ下の小学校学習指導要領特別の教科 道徳の「内容」の〔第5学年及び第6学年〕に示されている四つの視点A～Dのいずれかに関するものである。**ア**～**エ**と、A～Dとの組合せとして適切なものは、下の**1**～**5**のうちのどれか。解答番号は **25**。

**ア** 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

**イ** よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じること。

**ウ** より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。

**エ** 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。

A 主として自分自身に関すること

B 主として人との関わりに関すること

C 主として集団や社会との関わりに関すること

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

- |   |     |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|-----|
| 1 | ア－B | イ－A | ウ－C | エ－D |
| 2 | ア－B | イ－A | ウ－D | エ－C |
| 3 | ア－B | イ－D | ウ－A | エ－C |
| 4 | ア－C | イ－B | ウ－A | エ－D |
| 5 | ア－C | イ－D | ウ－B | エ－A |



**B** 中学校に関する問題

**26** 次の記述ア～ウは、それぞれ下の中学校学習指導要領特別の教科 道徳の「内容」に示されている四つの視点A～Dのいずれかに関するものである。ア～ウと、A～Dとの組合せとして適切なものは、下の1～5のうちのどれか。解答番号は **26**。

ア 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。

イ 真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。

ウ 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。

A 主として自分自身に関すること

B 主として人との関わりに関すること

C 主として集団や社会との関わりに関すること

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

1 アーA      イーD      ウーB

2 アーA      イーD      ウーC

3 アーB      イーA      ウーC

4 アーB      イーC      ウーD

5 アーC      イーA      ウーB

**27** 「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果」（国立教育政策研究所 令和元年7月）の中学校の調査結果に関する記述として適切なものは、次の1～5のうちのどれか。  
解答番号は **27** 。

- 1 国語の「読むこと」については、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことや、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることはできている。
- 2 国語の「話すこと・聞くこと」については、話合いの話題や方向を捉えることや、それを踏まえて自分の考えをもつことはできている。
- 3 数学の「資料の活用」については、問題解決をするために、どのような代表値を用いるべきかを判断することはできている。
- 4 英語の「聞くこと」「読むこと」「書くこと」については、話されたり書かれたりしている内容を聞き取ったり、読み取ったりすることに課題がある。
- 5 英語の「話すこと」については、全体的に課題は多く、特に即興でやり取りすることに課題がある。

## C 高等学校に関する問題

28 高等学校学習指導要領総合的な探究の時間の「指導計画の作成と内容の取扱い」に関する記述として適切でないものは、次の1～5のうちのどれか。解答番号は **28**。

- 1 年間や、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。
- 2 目標を実現するにふさわしい探究課題を設定するに当たっては、生徒の多様な課題に対する意識を生かすことができるよう配慮すること。
- 3 育てようとする資質や能力及び態度については、例えば、学習方法に関する事、自分自身に関する事、他者や社会とのかかわりに関する事などの視点を踏まえること。
- 4 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- 5 職業や自己の進路に関する学習を行う際には、探究に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の在り方生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること。

**29** 次の記述ア～ウは、それぞれ下の高等学校学習指導要領特別活動の「各活動・学校行事の目標及び内容」の〔学校行事〕の「内容」に示されている行事A～Eのいずれかに関するものである。ア～ウと、A～Eとの組合せとして適切なものは、下の**1～5**のうちのどれか。解答番号は**29**。

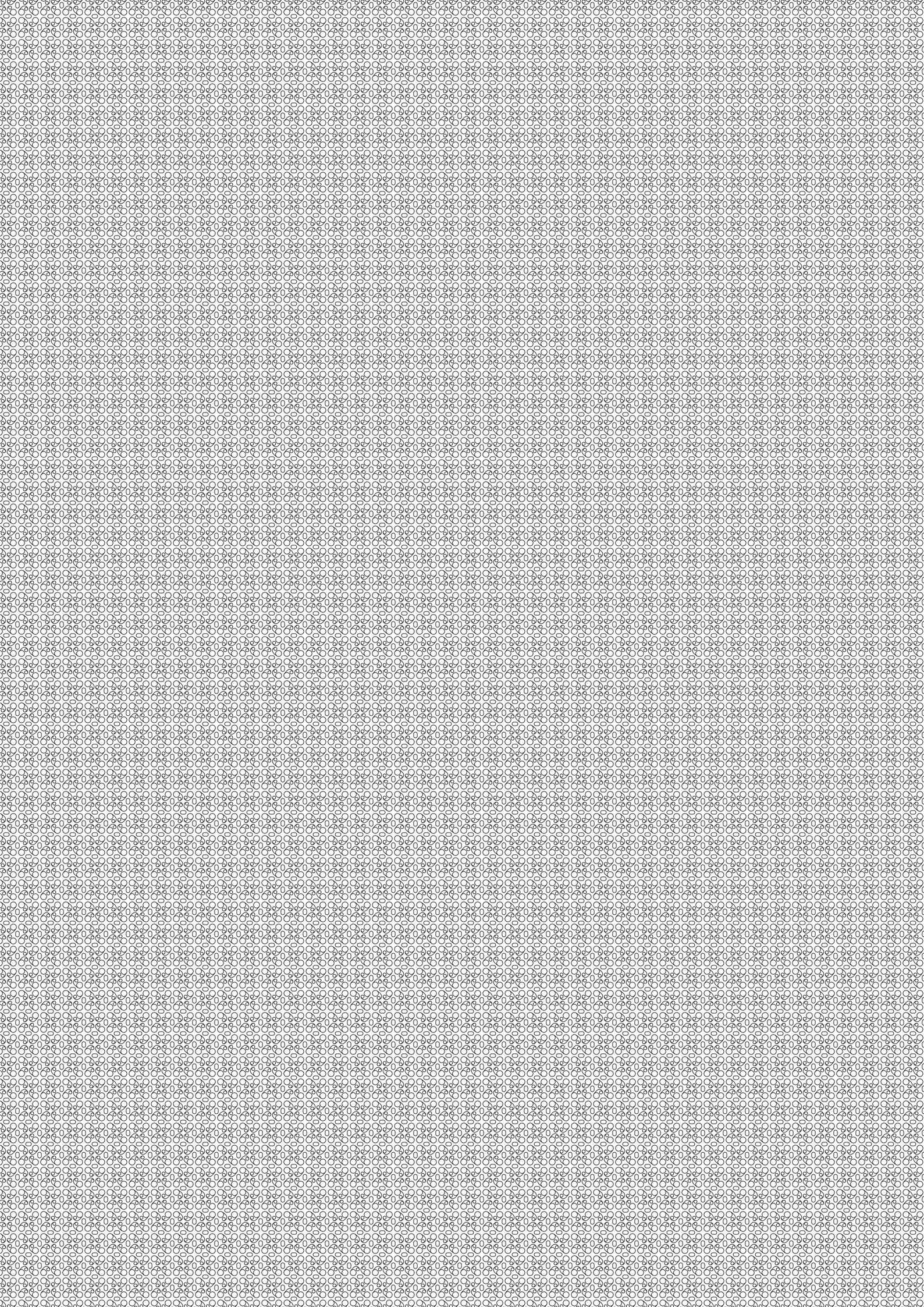
**ア** 平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。

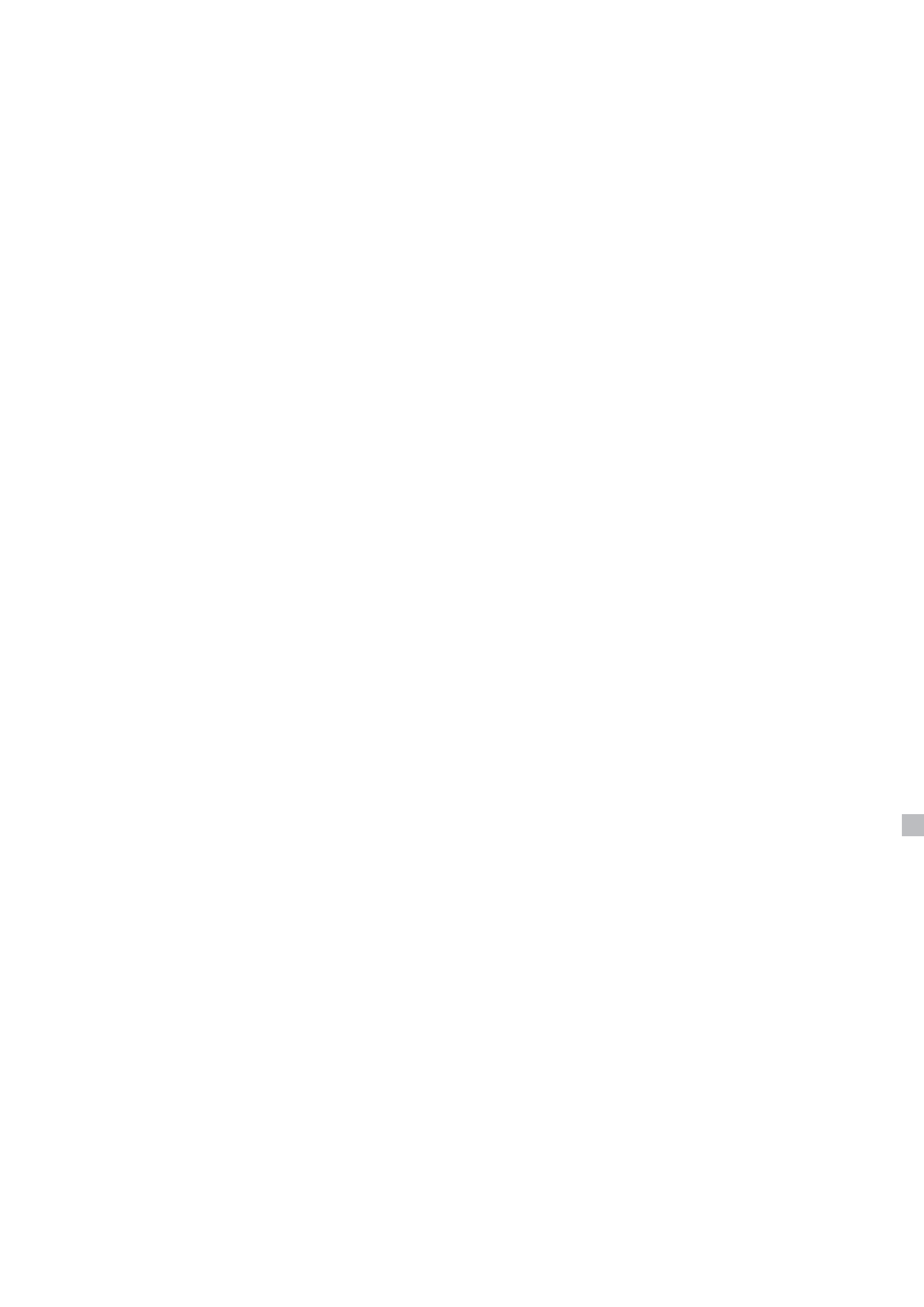
**イ** 学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるようにすること。

**ウ** 平素の学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするようにすること。

- A 儀式的行事
- B 文化的行事
- C 健康安全・体育的行事
- D 旅行・集団宿泊的行事
- E 勤労生産・奉仕的行事

- |          |             |             |             |
|----------|-------------|-------------|-------------|
| <b>1</b> | <b>ア</b> －A | <b>イ</b> －E | <b>ウ</b> －C |
| <b>2</b> | <b>ア</b> －C | <b>イ</b> －A | <b>ウ</b> －D |
| <b>3</b> | <b>ア</b> －C | <b>イ</b> －E | <b>ウ</b> －B |
| <b>4</b> | <b>ア</b> －D | <b>イ</b> －A | <b>ウ</b> －B |
| <b>5</b> | <b>ア</b> －D | <b>イ</b> －B | <b>ウ</b> －E |





## 2 (3年度採用) 【 教職教養 】

問 題 番 号		解答番号	正答	配点
大問番号	小問番号			
1		1	5	4
2		2	3	4
3		3	3	4
4		4	4	4
5		5	2	4
6		6	4	4
7		7	2	4
8		8	1	4
9		9	4	4
10		10	3	4
11		11	2	4
12		12	3	4
13		13	3	4
14		14	4	4
15		15	4	4
16		16	2	4
17		17	2	4
18		18	4	4
19		19	2	4
20		20	4	4
21		21	4	4
22		22	4	4
23		23	5	4
24		24	3	4
25		25	3	4
26		26	3	4
27		27	5	4
28		28	3	4
29		31	4	4